特253
688

國富籤

尚国航空国策

空軍無くして東洋国策なし

危い哉！無防備日本

院議員
甚次郎述（文責在記者）

始

特2
688

院議員
甚次郎述
（文責在記者）

危い哉！無防備日本

愛國富籤

空軍無くして東洋国策なし

特25
688

貴族院議員
水野甚次郎述

航空國策
國營愛國富籤

發行所 今敷書房

著者寄贈本

目次

一、一瞬に大東京は燒野原……一
二、防空なくして國防なし……七
三、航空省の創設が急務……一四
四、國營航空富籤……二二
五、空軍なくして又東洋國策なし……三三

一、一瞬に大東京は燒野原

闇夜の空に一ッの光茫！

流星!!か？

非ず!!

光茫は更に三ッ四ッ。

ゴー〳〵〳〵不氣味な唸りが頭上を掠め、サット橙色の火を吹いたと見れば忽ち此處彼處から天に冲する紅蓮の

焔。

敵機の襲來だ!!　危急を報ずるサイレンの響き、避難を命ずる防護團の活動も、時既に遲い。

一九一七年十二月六日の午前二時である。人々が祖國の勝利と、戰線に在る父と子そして夫や他の兵士達の幸を神に祈りつゝ夢路に入つたその頃、ドイツの爆擊機十五臺は編隊飛行をもつて突如!!　イギリスの首都ロンドンの上空に飛來し三百九十二個の爆彈を投下した。そのためロンドン市内には一時に五十二個所から大火災が起り多數の婦女子は生きながらにして地獄に投ぜられた。のみならず難を避けやうとして人々の集つた地下室は、附近の上水道送水管が爆彈を見舞はれて破壞したゝめ溢水濤々として流れ込み老幼男女約四百名の多數は押し合ひもみ合ひながら、阿鼻叫喚、火責め水責めの中に悲慘な死を遂げたのである。

歐洲大戰中獨逸空軍の大部隊はロンドンを空襲する事百四回、パリを空襲する事三十二回に及んでをり、戰爭に直接關係なき老若男女の死傷者は數千人に達してゐる。し

かもロンドン、巴里に於ける建築物は比較的堅固であつたに拘ず空襲の回數瀕繁であつたゝめに、斯くも多數の死傷者を出したのである。

もしこれが東京であつたら何ふであつたらう。帝都に聳ゆる丸の内ビルデングも、せい〳〵五〇〇瓩の爆彈一個の命中にあへば、恐らく木ッ葉微塵となると言ふ。これは凡ゆる實驗が證してゐる、況んや我國の建築物の大部分は何等、爆彈を要せずとも、一瓲乃至二〇瓲の燒夷彈を投下すれば忽ちにして燒失する事は論議の餘地がないのである。

思ふて茲に至れば慄然たらざるを得ないではないか!!

曾てソ聯極東軍司令官ブリュッヘルは『僅か三瓲の爆彈があれば、全東京を關東大震災と同等程度に潰滅する事ができる』と豪語した事がある。東京ウラジオ間は一千二百キロの短距離に過ぎない。若しソ聯にして大東京を空襲する意圖を有するならばその空軍部隊は三時間乃至三時間半で東京に達するから、或はその目的を貫徹し得るかも知れない。殊に沿海洲に集中してゐるソ聯の超重爆擊機數百機は、爆彈の搭載量五瓲乃至七瓲、航續距離は三、〇〇〇

粁乃至三、五〇〇粁であるから、假りにウラヂオ附近に根據地を置けば東京、名古屋、大阪、神戸等の大都市は何れもウラヂオから一千二百粁内外の近距離にあるから我國の軍事産業經濟の中樞部は常に恐るべき空襲の危險に曝されてゐるのである。しかも我國の現狀を見るに、大都市は悉く海岸に位置してゐるため機上からの判定が頗る容易で、燈火管制も煙幕展張もその効果は極めて微弱であり、完全に空襲の危險から免れ得る期待は甚だ薄いのである。のみならず各都市何れも大陸よりの航空圏内にあり、加ふるに

建築物は可燃性質多く、又避難所は素より大部は地下構造物を有せず、交通通信機關の大部は地上に暴露し、水源水道は容易に敵の破壞を受け得る狀態にある。

怖るべし!!　空襲の慘禍!!

危いかな!!　無防備日本!!

二、防空なくして國防なし

我々日本國民は　御稜威に依り幸に未だ曾て日本領土

内に於て空襲を受けた實戰の經驗を持たない。又將來と雖も空襲を受ける樣な事があつてはならぬのであつて、我々は大東京の空中爆擊等と言ふ悲慘なる將來戰を想像する事を快しとするものでは決してない。

さりながら空中爆擊の慘禍は近くは伊國空軍のエチオピア首都アヂスアベバの潰滅、或はスペイン反政府軍の首都マドリツドの空襲等に依つて、まざ〳〵と見せつけられてゐる。

防空なくして、國防なし！

これは歐洲大戰四年有半惱みに惱み拔いた歐洲人が思はず肺肝より發したる悲痛な叫びである。

一國の國防が陸海軍人と兵器とに限られた時代は、世界大戰を一劃期として過去の歷史となつた。今や戰爭は之を支持する凡ゆる分子に向つて全面的に攻擊の矢を向けらるゝに至り從來の所謂非戰鬪員、銃後の婦女子も軍人以上に銃前に曝さるゝ狀態となつた。

されば大戰に『空襲』の慘害を體驗せる歐洲諸國に於ては政治家と言はず、實業家と言はず、敎育者も農民も、國民一

體となつて空軍の充實、防空知識の普及訓練に、渾身の努力を拂ひつゝあるのである。

年々行はれる防空演習然り、しかもその訓練たるや頗る眞劍で、或は實際に毒瓦斯を使用し、或は防護に關する規定に反する者には刑罰を科するが如き、防空演習と言へば單に電燈を消すか、防火の眞似をする位に心得て居る手合とは斷然趣きを異にしてゐるのである。

若し一國にして防空施設の何ら見るべきものが無かつたならば、敵機は何の怖れ憚る所もなく、主要都市の上空に飛來亂舞して、一國の心臟部に對し『空魔の暴逆』を逞しうするであらう。

彼の前獨帝カイザーの豫言の如く數十時間を出でずして、一國が滅亡せずとは、何人が斷言し得るか！

最近發表の各種資料を綜合して見ると列强空軍の現狀は

國別	軍用機	民間機	合計
フランス	三、六〇〇	一、九〇〇	五、五〇〇
ロシヤ	三、五〇〇	一、〇〇〇	四、五〇〇
アメリカ	二、八〇〇	八、三〇〇	一一、一〇〇

イギリス	二、〇〇〇	一、三〇〇	三、三〇〇	
イタリー	一、五〇〇	四五〇	一、九五〇	
ドイツ	八〇〇	一、六〇〇	二、四〇〇	
日本	一、八〇〇	一五二	一、九五二	

斯くの如く列國は空軍の精鋭を誇つて常に待機の姿勢をとつてゐるのである。

これのみに依つても今我々は外敵航空力の重圍重壓下にある事實を知り得るではないか。

英・米・佛・露・支等の航空重壓は南太平洋から、サガレン方面から、露支大陸方面から犇々と我に迫り蜘蛛の巣の如く既に包圍してゐるのである。

勇斷敢行今にして速に對應策を講ぜざれば我國は危い。

今までの戰爭は陸戰と海戰が主であつたが、將來戰の特徴は『速戰卽決』を主眼とし、開戰劈頭、敵國首都の空襲に始まつて、空中戰に終始するであらう。

思へ！ 開戰劈頭の空中戰を！

若し萬一にも破れんか、世界第一を誇る我陸海軍も軍事行動を起さゞる前既に國家は焦土と化すであらう。

三、航空省と倶に綜合大航空研究所の創設が急務

日本の行く道は今二ツある、凡てを擧げて列强に屈するのも亦その一ツである。然しこれは我々日本人の到底能く忍び得る處ではない。

さらば日本は積極的に亞細亞の盟主として、敢然起ち上るか！

日本は人類二十億萬の過半たる十一億萬人を包容せる

亞細亞の中心に位置してゐる。即ち世界の中心に位してゐるのである。曾て京都は日本史上爭奪の巷となつた事がある。それは京都が日本の中心であつたからである。今日世界の中心に位する。日本は列國注視の的であり、將來世界の大問題は日本を中心とする問題であると覺悟せねばならぬのである。

陸海軍に對しては我々は滿腔の信頼を捧げてゐる。さりながら一朝有事の際に於ける國土防空は何ふであらうか。第一それは陸軍で防ぐべきか、大陸よりするものはそ

の根據地を陸軍で破壞占領する事が出來るにしても、海よりする航空母艦假裝航空母艦よりの空襲を如何にして防禦するか。それは海軍で防禦すべきか、南北四千粁の日本列島を襲擊する敵航空母艦の防禦に海軍を隨時隨所に分離別動する事になれば彼我主力勢力の均衡は破れ遂に制海權を失つて國家の運命に關する重大事とならぬとも限らぬ。然らば國土防空は如何にして完ふするか。特に速戰卽決が言はれ、作戰初動の威力强大が要求されてゐる。現狀に於て維新前黑船到來の際に、海防の危機を叫んだ以

來の重大問題であり、これに對する準備は方に緊急課題でなければならぬ。が、解答は簡單明瞭である。攻擊が最良の防禦であると言ふ、人類幾千年の歷史上動かす可からざる原則に照して國土防空の根本は國土空襲の敵飛行機の根據地、航空母艦を積極的攻擊破碎の外ない事が解るのである。茲に於て日本が東亞の盟主として積極的に敢然起ち上るには何ふしても國家總動員の國土防衛を計らねばならぬのである。軍事航空を急角度に擴張してこの際空軍國防第一主義の大革新を成就せねばならぬのである。

昨今、政府も亦政治家もしきりに東洋國策を申してをる。然乍以上の理由に依つて空軍の伴はない東洋國策は空念佛の如きもので何らの効果が期待されないのみならず實力を持たぬ故に、却つて、外侮を受ける由々しい事態を招來する恐れが充分あるのである。

然るに我國の空軍は前申述べた通り洵に寒心に堪へない。幸に私は先の帝國議會に於ては防空法に關する委員中に加へられ、親しく陸海軍當局から實情を承るの光榮を有したのであるが、これに依つて私は知る限りの範圍に於

て考へてゐたと同樣に海軍の空軍は性能に於て、修練に於て陸軍の空軍を遙かに凌ぐものがあり、日本の空軍と言へば海軍の空軍が一つあるのみとの感を益々深くしたのである。帝國海軍は彼のシーメンス事件を楔機として自肅自戒洵にお氣毒に思ふ位努めて來られた。それが今日最も國民の信賴を大きくしてゐる海軍をつくり上げたのだと私は堅く信ずるのであるが、驕漫を戒め、眞に想を日本の現狀と將來に致すならば獨り海軍に止まらない、優秀な空軍を保有する事も亦易々たるものではないか。

各國の飛行機とその施設はそれ〴〵の國情に卽して創造されてゐるのである。四方邊海の島帝國日本には日本の國情に卽した獨自の軍事航空が創設されねばならぬ。その所管に於ても陸軍省、海軍省、遞信省、文部省その他が割據して個々別々にこれを行つてゐる如きは徒らに重複するのみで、効果よりも弊害の多い事は既に各方面に實證される處である。

これらを打つて一丸とした航空省の實現は空軍の大擴充と並行して急務中の急務である。

殊に空軍第二線卽ち民間航空事業に何ら見るべきものない日本の現狀に於ては航空省を創設して急速にこれが擴大强化を圖らねばならぬや言ふまでもない事であらう。飛行機の性能についても專門家の言に依れば無爆音飛行機の製造は必ずしも難事でない。たゞ集注された研究費とブレントラストを得ればよいとされるが、現狀は各省に割據しエネルギーを分散して徒費してゐる有樣である。

我々と雖も陸軍から、海軍から、全然飛行機を取り去つて單一本の航空省を造れと言ふのではない、綜合統一した强

大な偉力を有する國家研究機關の設置を要求してゐるのである。

四、國營航空富籤

然るに航空責任者は『國庫が金をくれぬ』『豫算がない』の理由の下に、事理明白なる危局に直面しながら、今日の如く尙我國家を東亞に於て危殆に瀕せしめてゐるのである。

或る政治家の如きは私に向つて

『君がそんなに心配せずとも日本は神國であるから危急存亡を告ぐる際には忽ち、神風起つて天祐が與へられる』と稱し吹流しをつけた防空演習の擬裝敵機を仰ぎ見て快哉を叫んでゐる始末である。日本の神國たる何人にも異存はない。時に神助を垂れさせ給ふた事も能く承知してゐる。けれども皇國日本の光輝ある三千年の歷史は祖先の獻身的努力犧牲によつて造られてゐる。明治、大正以來國運は日に發展し國民生活は向上して、今日世界的不況時代に於てさへ比較的幸福な生活を營んでゐるのは一つに

祖先の賜物である。この恩惠に對し絶大なる感謝と奉恩の念を深くすると共に國家の基礎を益々鞏固ならしめ、以て皇謨を八荒に布かねばならぬ。豫算がないとか、天祐があるとか言つてゐる間に日本の赤化を唯一無二の照準として武裝を堅めてゐるソビエット露西亞の飛行機が頭上に襲ひかゝつて來たなら何ふするか。本年四月十四日濱松の防空演習を見學した際心秘そかに思つた事である。

『今こゝで天祐を頼みに快哉を叫んでゐるが敵機一度至れば皆な殺されて了ふのである。』

然しながら我々は此處で大藏當局の不明と航空當局者や一部政治家の緩慢を問責するの餘裕を持たない。即時に我軍事並に民間航空力の大擴充、航空省の創設を要求するのである。

世界の中心に位置する日本は、今や人類永遠の平和と發展とをもたらす新なる文化を建設すべき崇高なる使命を帶びて立つてゐるのである。徒らに豫算の尠きを嘆いてゐる秋でない。十億圓あれば列國の空軍に互するだけの空軍を確保し得る事になるのである。十億圓、決して尠小

の額ではなからう。然乍集むるに法を以てすれば必しも難事ではないのである。

さらば增稅に求むるか。

昭和十二年度に於て二億七千萬圓の增徵をなすにさへ非常な困難を伴つたのである。無理な增稅は徒に物價を暴騰せしめ、國民を自暴自棄に導き遂に惡性インフレの因を生じて恐るべき結果を招來するや必然である。加ふるに善良な國民は稅務官吏の强奪的搾取に堪へ得ず、時に或は反噬する者さへ生ずるやも測られぬ。のみならず租稅

增徵にはそれだけ多數の官吏を動員せねばならぬので、莫大な經費と時間を要し、何の方面から見ても當を得たものとは言へぬのである。

然らば何にこれを求むるか？

各國の例に徵し、臨機の處置として

『國營航空富籤』の發行が最も有効且つ適切な對應策と言はねばならぬ。國營富籤は列國既にこれを行ひアメリカの如きは本年度に於ても二十億ドルの國營富籤を發行してゐる。

富籤の實害なき事は諸外國の例に依つて明瞭である、而も顯著なる利益としては公債の如く國家が金利を支拂ふ必要なく、徵稅の如く物價昂騰を招來する惧れは更になく、又徵稅の如く苛劍誅求的に非ず國民の自由意志に依つて醵出するのであるから、國民思想を惡化せしめず、寧ろ醇化し得るのである。

我政府に於て國營富籤の如きを發行するに至つたならば全國民はその燃ゆるが如き愛國の熱情と當り籤に對する興味とをもつて、喜んでこれに應ずる意氣を有してゐる事は昨年十一月十八日勸業債券買入の殺到情況並に混雜防止のため勸銀は往復葉書に依る申込の新方法を構つた處その申込數實に一千萬を突破したと言ふ新聞の報導事實に徵してこれを知り得るのである。

私は昨年十一月勸業債券賣出の前夜から勸銀本店の周圍に泊りがけで押寄せてゐる數多き熱心な民衆を見、更に當日附近は勸業債券買入に殺到せる群衆に依つて交通遮斷され、百數十名の警察官は血眼となつて恰も暴力團に對するが如き取締の現狀を面の邊りに見て若し政府に於て

この際一枚二十圓の國營富籤を發行せらるゝに至らば三千萬通の賣上げは旬日を出でないで出來ると思つたのである。斯くて一億圓を當てゝ最高五萬圓から最低二十圓として當り籤を拂戻すとしても、五億の巨費は一擧にして航空充實の成果を得べく、更に或は農山漁村救濟の資に充當するを得るやに至るかも知れないのである。

世に一石二鳥と言ふ言葉があるが、これこそ一石數鳥ではなからうか。論者或はこれを以て國民の射倖心を煽る惧れありと言ふかも知れぬが、列國何れにも大なる害を認めず年々行はれてゐるものが、日本國民にのみ害があるとは考へられぬ。果して然らば年々增加率の夥しき中央及地方競馬に於ける馬券の如き實に大なる弊害と言はねばなるまい。馬券は申すまでもなく馬匹改良資金の調達を目的とするにあるが果して有効適切に行はれてゐるか何ふか疑問無きを得ない。近代戰は科學戰だと言はれる。馬を走らす事に何れ程の實戰的効果を期待し得やうぞ。馬券を禁ぜずして玆に所謂航空富籤券を許さぬ理はないのである。國營富籤こそ却つて國民に勤儉貯蓄の精神を

涵養せしむる一助となるのである。何故か。屋外勞働者に於ても眞に國家のため、その趣旨が諒解されゝば一日十錢二十錢の節約はなし得るものである。私は多數の屋外勞働者と共に生活してゐるが、これらの人々について見てもその可能を愈よ堅く信ずるものである。斯くして百日あれば二十圓の金を節約に依つて溜め得るのである。國營富籤券の發行はその出發點が國民の愛國心に依るものであるから富籤の當ると否とは更に眼中になく、喜んで溜め、喜んで出し、喜んで國家に寄附するであらう事は斷言し

得るのである。

馬券は年々濟々繰返されをるが國營富籤は一回か二回やればよいのである。その間馬券の發行を中止するのも或ひは方法であるかも知れぬ。昨年の馬券の賣上は一億三千萬圓に達してをり、勸業債券買入の狀況に徵して十億圓の航空債券を賣盡すのは容易である。

五、空軍なくして又東洋國策無し

忠君愛國の精神に充溢せる帝國臣民は無敵艦隊を、誠忠無比の陸軍を信頼するや絶大である。然共空軍の不備に對する不安は今やその頂點に達してゐるのである。地中海を壓する百三十萬トンの大英海軍が整備せるイタリー空軍の恫喝に遭ひ一溜りもなくその威を失ひ、その影を沒せる實情を聞くに及び我帝國空軍の現狀を以て安心する能はざるや切實である。日獨防共協定調印を見て防空の安心を唱ふる者もあるが、帝國の國防は唯々帝國々民これに當るの他ないのである。

皇國日本九千萬國民の等しきこの不安、憂慮、そして烈々火の如き愛國心の發露に依り、國營富籤の發行を見た曉、始めて帝國空軍は列國空軍の列に互するを得るのであつてその際にこそはソビエット露西亞の獨裁官スターリンの首根ッ子を押へバイカル以東を割讓せしめて、第二の滿洲國を造り得るのである。彼らは皇帝を×して國土を奪つた者である。日本が眞に實力を以て要求するに於ては何の躊躇もなく應諾するに至るや必然である。

日本が空軍を整備しバイカル以東を以て第二の滿洲國

を造り上げた日こそ日本は亞細亞の盟主として全世界に光輝を發する時なのである。これを成し得ない位なら寧ろ國策を論ぜざるに如ずである。これを成し得ずして東洋國策はないのである。

昭和十二年五月十三日印刷納本
昭和十二年五月十六日發行

水野甚治郎述（在文責記者）
東京市京橋區銀座西五ノ五

著作兼發行人　今敷宗治
東京市本郷區元町二ノ九

印刷人　江島榮太郎
東京市本郷區元町二ノ九

印刷所　隆文舍印刷所
東京市京橋區銀座西五ノ五（秀吉ビル）

發行所　今敷書房
電話銀座一三一〇、三六五二、三六五三番
振替東京九九六八三番

不許複製

375
363

終